

171-0014東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F

AA

日本ニュースレター No.113

6th ASIA OCEANIA SERVICE MEETING

於:ゴールドコースト(オーストラリア) / 8月14日~16日

テーマ「スポンサーシップ 広がりつづける輪の一体性」

参加: 前期評議員:金田/後期評議員:今井

AOSMの目的

アジア・オセアニア・サービス・ミーティングの第一の目的はまだ苦しんでいるアルコールクにアルコールクス・アノニマスのメッセージを運ぶことである。

アジア・オセアニア・サービス・ミーティングはこの目標を達成するための方法を探るフォーラムの場を提供するものである。この場で評議員達は自分の国での経験と力と希望を、アジア・オセアニアのあらゆる場所から参加した評議員たちと分かち合ってゆく。また、この領域のなかのグループの良心を代表して表明し、そしてワールド・サービス・ミーティングには参加資格のない国々との接点としての役割を果たしていく。経験によれば、健全なサービス機構があつてはじめて、AAのメッセージがもっと効率よく運ばれるものである。

アジア・オセアニア・サービス・ミーティングは、個々の国々のニーズにあつた健全なサービス機構が設定されるよう応援をし、直接言葉で伝えたり出版物や病院等へのメッセージ活動を通してもっとアルコールクに接触できるようAAのサービスの拡大を図っていく。

アジア・オセアニア・サービス・ミーティングはいかなるAAグループにも、いかなるAAサービス機構に対しても、何ら権威も持たないことを認識するものである。アジア・オセアニア・サービス・ミーティングでなされる決定で唯一影響を受けるのは、アジア・オセアニア・サービス・ミーティングのみである。

標記の目的を分かち合うために、オーストラリア/ブリスベン空港に到着した国々の評議員は、ニュージーランド、カンボジア、タイ、フィリピン、インドネシア、ベトナム、シンガポール、ロシア、日本、そして開催国オーストラリアである。ロシアの評議員は、4年ぶりの参加だ。彼は、広い東ロシアの地で3000キロにも渡ってメッセージを運んでいる。ある街まで行き、まず職を探してAAメッセージを運ぶ。このような方法でAAの無い町から町を旅してAAプログラムを運んでいる鉄人的なAAメンバーなのだが、私と同じ小柄な男で、ニコニコとパイプタバコをプカプカふかすヘビースモーカーの男だった。また、インドからのAOSM初参加の旅人は、トロントのAA70周年に参加したインドのAAメンバーに、今回通訳をお願いしたアメリカのAAメンバーがAOSM参加を呼びかけ、急遽参加を決め、8月8日にビザが下り参加できた評議員だった。また、シンガポールのAAメンバーは、シンガポールで働く日本のAAメンバーだった。彼は、シンガポールの地でも今苦しんでいるアルコールクにアルコールクス・アノニマスのメッセージを精

力的に運んでいた。今回はオブザーバー参加で駆けつけたのだが、その場の良心が即決でシンガポールの代表として評議員資格を承認した。残念ながら、韓国、中国、モンゴルはビザが下りずに参加できなかった。

それに加えて、ニューヨークGSOゼネラルマネージャーとスタッフ(国際担当)録音技師、通訳者、そして、AAメンバーのオブザーバー(日本からも)S O国際担当スタッフと現中国・四国評議員、元地方常任理事、女性のAAメンバー1名が参加)とオーストラリアAOSMホスト委員会メンバー、アラノンGSO所長と理事が参加してくれた。AOSMは、オブザーバーを歓迎している。だが、ミーティングでの発言はできないので、じっと辛抱して傍聴しなくてはならない苦労がある。チャンスとして、ワークショップの書記を急遽お願いする場面がある。だが、その報告書を数時間のうちにまとめなくてはならない大変さを覚悟すればの話だ。本当に、家族的なミーティングだということを想像していただけだろう。

第一回AOSM開催は、AA日本20周年集会の年に日本でスタートした。アジア・オセアニアのゾーンミーティングが始まったことは、その年の世界のAAメンバーに希望のメッセージを与えたミラクルな出来事だった。

「ああこれで終わりなんだ。今いろいろなことを思い出しています。32歳でAAの扉を開いて、57歳になりました。AAで生きる希望を与えられ、全体サービスの全ての役割のチャンスを与えてもらい、このAOSMが私の最後の仕事です。少し、寂しい気持ちがあります。振り返れば、第一回AOSMを日本で開催できたことは奇跡に近いことでした。ある日、いきなりニュージーランドのAAメンバーが三人でやってきました。きっと、ポケットマネーできたのだと思います。日本のメンバーに何度尻を叩いても、いっこうに返事が無いから、押しかけてきたのです。その行動力に押され、私たちは開催を決断できましたし、矯正施設へのメッセージのアイデアも分かち合うことができました。現在、たくさんの矯正施設・更生保護施設へAAのメッセージを運ぶことが出ています。日本での第一回AOSM開催は、10名ほどのメンバーでの分かち合いでした。それが、こんなに大きく成長したのです。本当にハイパーパワーに感謝します。」私が別れの言葉で話した内容を紹介しました。

アジア・オセアニアの地域帯で、全体サービス機構が確立している国は、オーストラリア、ニュージーランド。アジアでは日本だけです。今回のAOSMに出席した国々の評議員もロシアとインドだけが自国民です。他の国々は仕事で長期滞在している他の国のAAメンバーです。ですが、どのAA

メンバーも「境界のないAAの原理をエキサイティングに運ぶAAメンバーです。ほとんどの国がグループレベルのサービスしかありません。ある国では法律で集会が禁じられていて、AAミーティングを開くには政府の許可をとらなければならない現状や、アルコール依存症は病気ではなく意志の問題として考えられていて、AAでいう「正直な飲んでいたときの話」などを他人にすると、親族の恥だといって、暴力を受ける国もあります。また、日本のような公的扶助といった制度もない国もあります。

また、話し言葉のみで書き言葉がない国もあります。一つの国にもすごい数の言語がある国もあります。これらの問題がアジア・オセアニア地域帯のもう一つの問題でもあるのです。でも、私たちの未来は明るいのです。今回のミーティングで、GSOゼネラルマネージャーが言っていた言葉に答えがあるように思います。

「私たちの活動はゆっくりと進歩することが重要です。サービス機構を作ることを急がないでください。強いグループを作ってください。困難は私たちにとっておめでたいことなのです。」

今回、AOSMのミーティングの内容は、お伝えできませんでしたが、簡単な報告書を後日全国のグループにお送りしたいと考えています。また、報告会の要請があれば努力したいと思っています。また、出発前に分かち合ってきてほしい質問をいただけたことも感謝いたしております。

後期AOSM評議員：今井

日本のAA、グローバル化 !!
国際協力に強い関心 !

687,955円
 179,311円増

今年も例年の様に、ビルとボブの会った日を記念して6月10日から30日までの間を「国際協力献金お願い期間」として、グループの皆さんに国際協力に関心をもって頂き併せて献金をお願いをいたしました。今年は特に日本のAA30周年記念集会の開催年であり近隣の国々からお客を招待したいこと、またモンゴルのAOSMへの参加支援を進めたいことなどを評議会に於いても協議を深め、さらにグループの皆様方には月例の報告書等と一緒に印刷物をもって、状況の報告等行ってきました。取り分け、国境を超えて分かち合いを進めるときに、常に難問として立ちはだかっているものに、それぞれの国の経済価値の格差があります。貨幣価値の高い国でのイベントに貨幣価値の低い国から参加しようとすると、国によっては捻出不可能とさえ思えるほどの負担が必要な事さえあります。

このような状況下で、AAの愛の分かち合いを広めるためには金銭的支援が不可欠なのです。

このような状況を評議員、グループにあってはグループ代議員がそれぞれの機会を捉えよく話しあって頂いた結果、タイトルに表記致しましたように本年度寄せられた献金総額は687,955円でした。昨年度に比べますと18万円ほどの大幅な伸びとなりました。皆様の愛のこもったグローバルな理解が献金に反映されたものと、心から感謝申し上げます。

8月14日から16日までの3日間、オーストラリアのゴールドコーストでアジア・オセアニア・サービス・ミーティ

ング(AOSM)が開催されました。前記致しましたように、当初の予定ではこのサービス・ミーティングにモンゴルのAOSM評議員2名が参加予定となっており、日本の常任理事会とアメリカ・カナダ常任理事会が経費の負担を引き受けず送金致しておりましたが、オーストラリアのビザ取得が間に合わず、残念ながら実現できませんでした。しかし、AAのプログラムが伝わってあまり時間の経ってない国もAAの大きなマルの中にあるという心は伝わりました。送金しましたお金は返金頂くことになっておりますが、モンゴルでの送金手数料が大変高いようで、30周年の時に返していただくことになっております。(蛇足でした)

30周年記念集會に招待しているモンゴル、韓国は、招待に応じて頂いております。中国については未だ協議中となっております。これらの招待費用も今回の献金により賄われます。また今回のAOSMには、2名のWSMD(ワールドサービスミーティング評議員)が参加致しましたが、この参加費用も今回の献金により賄います。その他の用途、或いは国際出版献金の金額等ははまだ決まっております。決まり次第報告致します。

今回のAOSMに於いて日本のオリジナル出版物である「ようこそAA」の報告をいたしました。一冊しか持参していなかったのが残念でしたが、カンボジア、タイ、ベトナムの評議員には強い関心をもって頂きました。また、ロシアの評議員の話では、極東に数グループ、サハリンにも数グループがあるとの事です。現在ではまだ往来が滑らかではありませんが、将来ロシア、モンゴル、朝鮮、日本が対象の極東アジアインターが構成されるかもしれません。

グローバルなAAの成長を「国際協力献金」は支えています。

協力、ありがとうございました。

WSM評議員 カネタ



AAの愛とサービスの輪

~ 関西 ~

手渡されていくもの

ソーバーが短いのは知っていたけど、一度スリップした後の自己評価の下がった中で、仲間にも認めてもらえたようなうれしさと、僕は大丈夫という根拠のない自信の中で、『カギ開けたら仲間が手伝ってくれるから』という仲間、『わかりました』と答えていました。

当初は、何かさせてもらえるすなおな喜びと、ミーティング終了時に司会から『チェアマンにお返しします』の言葉が虚栄心をくすぐっていたのだが、2ヶ月もすると虚栄心が暴走し、もっとたくさんのメンバーにホームグループに来てもらって、自分のチェアパーソンぶりを見てもらいたい気持ちで、ミーティング場に足を運ぶ日数が増えていきました。実

際にグループメンバーが増えたり、ミーティング場もにぎやう時期もかさなって有頂天になっていました。

そのうち少し落ちついて、特別なことをしているわけではないことに気づかされたのですが、その気持ちの余白に入ってきたのは、もっといいミーティング場にしなければの感情と、他のグループメンバーへの不満でした。

年も明け、会計と副代議員の役割も増え、ますます調子に乗っていくはずの僕に立ちをはだかってくれたのが、チェアパーソンの任期半年でした。

短かった、なんとかもう少し続けることが出来ないか、という気持ちと、半年できれいに交替して外面をよく見せたい気持ちが混ざり合ったままのビジネスミーティング。次のチェアパーソンをすることになった仲間が、すなおな『全然なにやっていいか解からへんから教えてな』の言葉に、『俺の時は、いきなりやったからもっと解からへんかったけど、大丈夫、大丈夫、何でも言ってな。半年飲まずにいられたし』と答えることが出来た。今までのモヤモヤを、仲間の言葉の力で手放すことになっていました。

役割交替の最初のミーティング、『何をしたらいいの?』とやってくるチェアパーソン。『とりあえずいつも通りに準備して...あとは、今日からハンコ押し頼むな』。

いつもの月曜日、いつもの仲間たちと飲まない今日一日が与えられている。自分の居場所はここにある喜びでした。

話は前後して、5ヶ月目に参加して当日のお手伝いをした関西ラウンドアップ。福井の美しい海に、仲間とボートを浮かべ楽しい時間に、またまた暴走し次の年の実行委員長に手を上げ、なんとか無我夢中で終了。

そして今年のラウンドアップ、会計として参加している僕の前に現れたのは、昨年初めていったラウンドアップでのカヌーが楽しかったのだと、実行委員になってくれた新しい仲間でした。コソバイ気持ちと、自分が過去に繋がっていてこれから起こることに関わっている感じでした。

飲んでいたころ、自分の手にあるものはすべて自分の持ちもので、もっと欲しい不満と今あるものを失う恐怖が、行動原理の大きな部分だった自分。

人に手渡され、人に渡していくことの中に喜びがあるなんて思いもよらずにいました。生かされ続けている間、与えられるものには終わりなく、それを一人じめに出来るものではないし、そんなところには幸せはない。あの日、先ゆく仲間がくれたバトンが、僕に教えてくれたものでした。

兵庫地区 AAイフグループ 古

「愛とサービスの和」

AA住之江ミーティングに初めて参加してから、一年が過ぎました。この一年間、住之江グループのメンバーとして、色々なことを経験し、教わり、他の何事にも変えがたい大きな力を頂きました。そして徐々にお酒に対するとらわれから解放されていきました。この一年間の経験から気づいたことを中心にして、テーマの「愛とサービスの和」というものを自分なりに考えてみたいと思います。

愛というものは、その言葉の持つ意味合いも多く、捉え方が非常に難しいものだと思います。仲間に対する愛ということについて初めて考えたとき、その愛の形は、ずっと積極的に与え続けて行かなければならないというものでした。しかし、過度の愛情や、歪んだ愛情は、時には反発を買うということがだんだんと分かって来ました。決して、苦しんでいる仲間に直接手を差し伸べることだけが愛なのではなく、場合

によっては見守っていくことも愛なのだとすることに気がついたので。ステップ1の認めるということは、自分自身で気づくことから始まるものだと思います。それは押し付けからは決して生まれません。仲間の回復を願って手を差し伸べることが、愛の押し付けようになってしまうと、その仲間は逆に遠ざかってしまうこともあります。時には積極的に進む道を示すことや、ともにミーティング場に通うことも必要であると思いますが、自分自身で気づいて歩き始めるのを見守っていくということが、結局はその仲間の回復につながることも多いと思います。それは、相手を思いやる気持ちから生まれるものだと思います。常に相手を思いやる気持ちを持ち、温かく見守っていける強さを持って接することこそが、本当の愛なのであり、僕自身も常にそうありたいと願っています。

サービスと言えば、イベントの実行委員のように、顔の見えるものばかり思い浮かべていた時期がありました。確かにイベントの実行委員をする仲間がいなければ、イベント自体が成立せず、多くの仲間の希望が消えてしまうことになりかねないので、大切なサービスの一つだとは思いますが、しかし、グループというものを、そしてその目的は何かということを考えてみれば、サービスはもっと身近にあるように思います。ミーティングは、メンバーの回復に必要なものではありませんが、それだけではなく、お酒に対するとらわれから抜け出せずに、今も苦しんでいるアルコールのため存在するものでもあり、それがグループの存在理由の一つであるという考え方ができます。そういう考え方を持つようになってから、グループのメンバーの一員として自分にできるサービスとは何なのかが、少しずつ見えてきたような気がします。グループの中には、各ミーティング場のチェアマンや、会計などの役割があり、その役割を努めることはとても大切なことです。しかし、ミーティング会場の準備をすることや、後片付けをすることのように、あまり目立たないことこそが、サービスの基本のような気がします。それが無ければミーティングを滞りなく開き続けることが出来なくなり、結局は、グループの本来の目的が置き去りにされてしまうこともあり得るからです。サービスというものは、決して顔の見える目立つものだけではなく、自分の出来ることを地道に行うことこそが基本なのだとすることを、常に心に留めておきたいと思っています。

和とは、グループ単位で考える場合、各メンバーの認識の共有から成り立つものだと思います。個々のメンバーが、愛とサービスについての共通した認識を持つことが重要であるように思われます。和というものの捉え方を間違えると、各グループはAAのグループであり続けることが困難になるように思われます。方向を間違えば、自分たちの事しか考えない仲良し集団になる可能性もあれば、また崩壊する可能性もあります。そうならないためにも必要なのが、AAの伝統なのだと思います。グループの良心によって色々なことが決定され、そしてそれに従うことによって、各メンバーに共通の認識が生まれ、一体性を保つことが出来るのだと思います。そしてこの一体性こそがメンバーの回復の源になるのだと思います。

常に思いやりの気持ちを持ち、グループの本来の目的を忘れることなく、与えられた役割に責任と自覚を持って、これからも仲間と共にいつまでも歩んでいきたいと願っています。なぜならば、正にそのことに自分自身の回復がかかっているのですから

住之江グループ すうちゃん

「広報&病院施設フォーラム」の報告とお願い

常任理事会広報担当理事 原田
同 病院施設担当理事 工藤

2004年に中四国地域で実施された「広報&病院施設フォーラム」の報告書作成が遅れていることをまずお詫びいたします。皆さんの手元に届くようにと手がけていますが、今少し時間を頂くことをお願いします。

この第三回「広報&病院施設フォーラム」は多くの関係者、AAメンバーの参加により、昨年2004年に中四国地域広島県広島市で開催されました。

第一回は、2002年関西地域滋賀県近江八幡市、第二回は2003年関東地域栃木県宇都宮市でいずれも多くの関係者、AAメンバーの参加、また実行委員会メンバーの努力によって実施されております。

三回を経た中で、参加された関係者からフォーラムのアンケートを寄せていただき集計させていただきましたが、「AAを知ってはいいたが活用するまでには至らず、フォーラムに参加し強く関心をもった」という関係者が多いことが特に目立っています。

フォーラム自体は、医療、行政、マスメディア等一般の方々に「社会資源」としてAAを知っていただくという性質のもので、私たちが日頃行っている直接的なステップ活動とは違い間接的なものです。フォーラムが開催されたからいきなりメンバーが増えるということではなく、時間のかかるものと思われま。しかしながら実施後の地域のAAメンバーの話に、関係者から促されてAAにつながってくる人たちもいる、またその地域のAAメンバーのサービスに対する関心がたかまってきたということも聞きます。やはりAAは「ビル・W」がいわれたように、活動しつづける集合体なのだ、ということを実感しています。

2005年は日本のAA30周年という大きなイベントが控えていますので「広報&病院施設フォーラム」の立候補地域はなく開催に至っておりません。これは30周年に全員が力を注ぐという「ハイヤーパワー」の配慮なのかもしれません。

常任理事会の広報委員会、病院施設委員会では2006年度、2007年度の開催地域の立候補を各地域にお願いしていますが、2005年6月、中部北陸地域から2006年度の「広報&病院施設フォーラム」開催地立候補の届けがありました。複数の立候補がありましたら抽選ということになりますが、現在のところ他の立候補はありません。2007年度の開催地も引き続きお願いし、長期的なビジョンを持ち計画したいと思しますので、「今度はうちの地域だ」という元気な立候補の声をお願いいたします。

「広報&病院施設フォーラム」要項

趣旨等 AAの存在とプログラムを誤りなく一般社会、とりあえずは関係者の皆様に知っていただく。

AAの存在があまり知られていない、メンバーもグループ数も少ない地区での開催がよいと考える。

開催地は対象者が参加しやすい地方中核都市が望ましい。

詳細は地元の意向を尊重し、実行委員会と協議する。

主催等 主催は常任理事会です。窓口はJSO(常任理事会

広報委員会)になります。担当は広報担当常任理事、病院施設担当常任理事があたります。開催に当たり地元の協力をお願いします。

対象者 専門家、関係者、メディア関係などいわゆる広報委員会、専門家協力委員会がメッセージ等、お届けしたいと考える方々です。

経費等 常任理事会広報委員会予算から支出します。ただし、付随するイベント等の経費は除きます。

AA日本サービスフォーラムの予定など

企画担当常任理事 森田

このニューズレターがメンバーあるいは関係者の皆様のお手元に届くのは、福岡でのAA日本30周年記念集会直前、あるいは、開催直後のことであると思います。理事会の企画担当、JSO、九州・沖縄地域の実行委員会、いずれも経験と力と希望を分かち合って、記念集会の成功に全力を尽くしたいと思います。

さて、30周年記念集会と日程がぶつからないようにと、今年開催を避けて2006年に計画しています「AA日本サービスフォーラム」ですが、中四国地域の実行委員会での話し合いで、大まかな概要が固まりつつあります。全国の皆様へこの場を借りてお知らせいたします。

第6回AA日本サービスフォーラム 概要(速報)

開催日 2006年3月3日(金)~5日(日)2泊3日のプログラムを予定
場所 山口県セミナーパーク.....山口市 大字 秋穂二島
(あいおふたじま)1062

JR山陽本線 四辻駅より約2.5km

山陽自動車道 山口南インターチェンジより数キロ

費用 参加費1000円 宿泊費1500円/1日×2 (食費別)

内容 テーマ「私の責任」 全体会と分科会で構成

分科会の詳細は検討中です。

正式なフォーラムの広報と申込は、これから準備いたします。

また、2007年度のサービスフォーラム開催地として、関東甲信越地域より立候補がありました。常任理事会企画担当はこれを受け、第11回全国評議会で正式に報告いたします。

それ以降の開催地域立候補については、引き続き募集していますので、地域集会などでご検討いただき、立候補の場合はJSO宛に文書でご通知ください。

AA日本30周年記念誌が製本、納品されました。

頒布価格2000円・1200部印刷ということと、全国のAAグループに一部ずつ送付し献金を募ることが、第9回全国評議会で勧告されました。福岡の記念集会会場です。また9月のJSOからの定期情報送付でグループ代議員宛に送らせていただきますので、献金にご協力ください。

JSOはAA日本30周年記念集会へスタッフ全員が参加するため、9月1日(木曜日)2日(金曜日)お休みさせていただきます。

AA日本ニューズレターNo. 113

編集・発行：NPO法人 AA日本ゼネラルサービス(JSO) 〒171-0014東京都豊島区池袋4-17-10土屋ビル4F

TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419 ホームページ：http://www.aajapan.org